

屋外大型岩石（褶曲）標本展示をリニューアル

— 炎天下、手作りに挑戦！ —

本 間 岳 史

7月から8月にかけての夏休み期間中は、一般来館者や自由研究の相談に来られる親子が増えます。博物館では、体験工房や自然史講座を何度か開催し、理科学習相談室も設けて、これらの需要に対応しています。また、この時期には、博物館実習（学芸員資格をとるための大学生の館務実習）、20年経験者研修（小中高教員）、5年経験者研修（高校教員）、インターンシップ（学生の就業体験）などが、博物館で行われます。このため、博物館側としては、充実した体験や研修ができるように、工夫をこらしたプログラムを考えて、指導・助言に当たっています。

例年、受付やイベントの補助などの室内作業が多いのですが、この夏は、屋外大型岩石（褶曲）標本展示の老朽化した木枠交換も、メニューのひとつに加えさせていただきました。作業に従事していただいたのは、20年経験者研修の先生方6人と博物館実習生の2人です。当館の職員2人も加わり、計10人で作業を行いました。一日半という限られた時間のなかで効率よく作業を進めるため、工程前半では、木枠作成、解説板作成、砂利処理の3班に分かれて作業を行い、後半の現場据付け作業では、炎天下、全員で力を合わせて作業を行いました。

かつては、展示というと、専門の業者に製作を委託するのが常でしたが、いわゆるバブル

景気が去った後は、緊縮財政のなかで、博物館では手作り展示が目立って多くなりました。パネル展示などは、パソコンの普及により完成度の高いものが自分で作れるようになったこともあって、今ではほとんどが手作りです。木工事や塗装を必要とする展示物は、さすがに展示業者へ委託するのが普通ですが、この屋外展示は、10年程前にあえて職員が手作りに挑戦して設置したものです。この間、解説文をラミネートしてアクリル板に固定した説明板は、数回交換しましたが、3個の大型岩石のそれぞれを囲む木枠は、かなり腐食が進行していましたので、木枠の交換が迫られていました。

製作に当たっては、あらかじめ、防腐・防虫処理を施した2×4材、黒檀色のキシラデコール（防腐・防虫塗料）などを用意しました。作業は、ベテランの先生方の技術と実習生の若い力がうまく噛み合い、連携プレーも円滑に行われ、ほぼ予定通りに進行・完成させることができました。炎天下、大汗を流しながら重労働に従事して下さった先生方と実習生の皆様には、大変感謝しております。今後少なくとも10年位は玄関脇に展示されていることと思いますので、今度は生徒たちを連れて見学に来ていただけると、先生の苦労話もはずんで、生徒も興味を持って見学できることでしょう。



木枠のカット



木枠の塗装



説明板の製作



砂利の充填



みごと完成！ 全員で記念撮影

（ほんま たけし・専門員兼学芸員）